

国立民族学博物館研究報告 vol.11-4; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	11
号	4
発行年	1987-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009222

1986—11.4号
卷

国立民族学博物館 研究報告



ネワール語の能格現象——長野泰彦

現代チベット語方言の分類——西 義郎

中国の高床式住居

—その分布・儀礼に関する研究ノート——周 達生

XVI and XVII Century Relationships among Portuguese and
Dutch and their Reflexions in Japan——Joseph M. Luyten

The Supply of Marine Fish Species for Fermentation in
Southeast Asia——Kenneth Ruddle



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

11 卷 4 号

1986 年

目 次

ネワール語の能格現象	長野泰彦	811
現代チベット語方言の分類	西 義郎	837
中国の高床式住居 —その分布・儀礼に関する研究ノート—	周 達生	901
XVI and XVII Century Relationships among Portuguese and Dutch and their Reflexions in Japan	Joseph M. Luyten	979
The Supply of Marine Fish Species for Fermentation in Southeast Asia	Kenneth Ruddle	997
彙 報		1037
国立民族学博物館研究報告 11 卷 総目次		1043
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		1044
国立民族学博物館研究報告執筆要領		1045

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 11 No. 4

1986

NAGANO, Yasuhiko	Ergativity of the Newar Language	811
NISHI, Yoshio	A Classification of Tibetan Dialects.....	837
ZHOU, Dasheng	On Stilt Houses in China	901
LUYTEN, Joseph M.	XVI and XVII Century Relationships among Portuguese and Dutch and their Reflexions in Japan	979
RUDDLE, Kenneth	The Supply of Marine Fish Species for Fer- mentation in Southeast Asia	997

彙報 (昭和61年10月～
昭和61年12月)

シンポジウム

「民族誌映画の理論と展望」

期間 昭和61年10月19日(日)～26日(日)

場所 国立民族学博物館

摘要 民族誌映画は急激に変貌してゆく伝統的文化を調査・記録し、かつ研究するための手段である。今回のシンポジウムでは、映画という媒体の可能性を念頭におきながら、民族誌映画の理論的検討がおこなわれた。具体的には、民族学における映画利用の歴史的経緯と展望、研究・撮影者の現地での姿勢、利用者の意向を反映した製作方法などについて討議された。

組織委員会

委員長

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

委員

竹村 卓二 国立民族学博物館第一研究部長

佐々木高明 国立民族学博物館第二研究部長

伊藤 幹治 国立民族学博物館第三研究部長

藤井 知昭 国立民族学博物館第四研究部長

杉本 尚次 国立民族学博物館第五研究部長

奏 明夫 国立民族学博物館管理部長

実行委員会

委員長

大森 康宏 国立民族学博物館第三研究部助教授

委員

小谷 凱宣 国立民族学博物館第一研究部助教授

須藤 健一 国立民族学博物館第一研究部助教授

石森 秀三 国立民族学博物館第四研究部助教授

吉本 忍 国立民族学博物館第二研究部助手

久保 正敏 国立民族学博物館第五研究部助手

糸金則由起 国立民族学博物館庶務課長

佐藤 嗣 国立民族学博物館資料室長

湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務理事

宇治日出二郎 財団法人千里文化財団事業部長

参加者

Antonio Marazzi パドバ大学教授(イタリア)

Jean Rouch フランス国立中央科学研究所視聴覚部長(フランス)

Faye Ginsburg ニューヨーク大学講師(アメリカ)

Paul Hockings イリノイ大学教授(アメリカ)

Timothy Asch 南カリフォルニア大学教授(アメリカ)

市岡 康子 武蔵野女子大学講師

大橋 力 筑波大学講師

大森 康宏 国立民族学博物館助教授

祖父江孝男 放送大学教授

谷 泰 京都大学人文科学研究所教授

牛島 巖 筑波大学助教授

日程

10月19日(日) (千里阪急ホテル)

受付

10月20日(月) (国立民族学博物館)

開会式

<第1セッション>

(座長: Jean Rouch)

民族誌映画発展のための基本的問題

大森 康宏

(座長: Paul Hockings)

現代における映像人類学

Jean Rouch

(座長: 大森 康宏)

民族誌映画製作と人類学理論の発達

Paul Hockings

館長招待レセプション(フィルム上映)

10月21日(火)

国立民族学博物館見学

(京都グランドホテル)

谷口豊三郎氏招宴(フィルム上映分)

10月22日(水)

修学院離宮見学

京都御所(時代祭り見学)

鞍馬寺 火祭に参加

10月23日(木) (国立民族学博物館)

<第2セッション>

(座長: Antonio Marazzi)

文化人類学研究のための映画

Timothy Asch

(座長: Timothy Asch)
日常生活における笑い
谷 泰
(座長: 谷 泰)
民族誌・人類学映画(製作・配給・
使用)

Antonio Morazz

試写会(千里阪急ホテル)

10月24日(金)(国立民族学博物館)

<第3セッション>

(座長: 牛島 巖)
人類学映画を用いたテレビによる大
学教育

祖父江孝男

(座長: 祖父江孝男)
日本における映画人類学の状況

牛島 巖

(座長: Faye Ginsburg)
テレビプログラムとしての民族誌映
画

市岡 康子

(座長: 市岡 康子)
テレビ放送における民族誌映画(ア
メリカとイギリスの場合)

Faye Ginsburg

(千里阪急ホテル)

試写会

10月25日(土)(国立民族学博物館)

<第4セッション>

(座長: Jean Rouch)
民族誌映像と音声伝達の新次元

大橋 力

<総合討論1>

(座長: 大森 康宏)

<総合討論2>

(座長: 大森 康宏)

報告書に関する打ち合せ

閉会式

10月26日(日)(千里阪急ホテル)

昼食後 解散

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官 職	出 発	帰 国	行 先
ケネス・ラドル	助教授(第五研究部)	61.10.12	61.10.22	フィリピン共和国
石毛 直道	教 授(第四研究部)	61.10.15	61.10.25	アメリカ合衆国
片倉 素子	教 授(第二研究部)	61.10.18	61.11. 4	エジプト, アラブ共和国
宮本 勝	助教授(第二研究部)	61.11. 7	61.11.30	パラオ共和国, ミクロネシア連邦
ケネス・ラドル	助教授(第五研究部)	61.11.15	61.11.30	インドネシア
大森 康宏	助教授(第三研究部)	61.11.20	62. 1. 7	フランス, イタリア
田邊 繁治	助教授(第二研究部)	61.11.21	61.12. 4	タイ
周 達生	助教授(第一研究部)	61.12. 5	61.12.31	中華人民共和国

来館者抄

10月6日	中国湖南省湘西土家族苗族自治州 工藝美術展覽代表団一行 団長 吳 光 海(湖南省湘西 土家族苗族自治州人民政 府副州長)			吳 黎 芳(同県城建局 建材公司民間工藝師)
	副団長兼秘書長 周 文 光(同州文化局 副局長)			10月7日 Francisco Lafaiete LOPES(ブ ラジル, リオ・カトリック大学 経済学部教授, ブラジル国企画 省特別顧問) フランソワ・レイネール夫妻 (フランス, ラ・ビレット国立 科学技術産業博物館メディアテ ック館長)
	団員 田 大 年(同州民族工 芸美術研究所設計師) 張 曉 華(同上) 彭 仲 萍(花垣県民族 工藝美術廠工藝師) 徐 家 登(永順県建委 房産公司民間金石家) 劉 貢 鑫(鳳凰県民族 工藝廠民間工藝師) 吳 香 英(同県禾庫排 雲村民間工藝師)			10月11日 王 学 珍(中国, 北京大学校 務委員会主任, 中国共産党北京 大学委員会党書記) 顧 稚 英(中国, 北京大学ロ シア語学部副教授) 柯 高(中国, 北京大学留 学生弁公室主任) 趙 恩 普(中国, 北京大学外 事処副科長)

彙 報

- 10月13日 Lysiane GAGNON (カナダ, ケベック州 ジャーナリスト)
Charles E. HOLMES (U. S. A., State of Alaska, Dept. of Natural Resources, Office of History Archaeology)
Allen P. McCARTNEY (U. S. A., Prof. of Anthropology Univ. of Arkansas)
- 10月14日 Bunnag PATCHAI (タイ, タイ商科大学長)
- 10月18日 中国中日関係史研究会青年会員代表団一行
団長 張 斌 (中国中日関係史研究会接待部主任, 北京市社会科学院)
団員 魏 加 寧 (同会弁公室副主任, 國務院經濟技術社会發展研究中心)
石 軍 (同会弁公室副主任, 北京市社会科学院)
汪 靖 (同会会員, 中国非鉄金属公司鋳業冶金研究院)
張 秀 英 (同会会員, 北京市对外翻訳公司)
- 10月20日 Kiflom ADGOI (エチオピア, ヘラルド紙編集長)
- 10月23日 大崎 仁 (文化庁長官)
Daueresne de la CHEVALERIE (フランス, 前駐日フランス大使)
フェヴリエ (フランス, ヴァルドワーズ県副議長, ヴァルドワーズ經濟振興委員会委員長, コネス市長)
フェルニオ (ヴァルドワーズ県議會經濟振興委員会事務局長)
フランソワ・デスクエット (フランス総領事)
ブリュネ (前フランス総領事)
- 10月27日 中国出版代表団一行
団長 辺 春光 (国家出版局長, 国家版權局長)
団員 吳 克 明 (国家出版局出版処長)
邵 益 文 (中国出版發行科学研究所副所長)
盧 昆 (山西省出版總社副編集長)
- 関 未 儒 (四川科学技术出版社編集長)
通訳 鄭 全 米 (国家出版局外事処職員)
Janos ELEK (ハンガリー, テレビ報道編集局次長)
- 10月28日 中国芸術系大学学生代表団一行
団長 王 永 德 (中央戯劇学院副院長)
秘書長 周 文 英 (文化部教育局外事処職員)
団員 関 海 龍 (中央戯劇学院演劇学科学学生)
南 宮 信 淑 (同上)
張 群 (中央美術学院油絵学科学学生)
劉 慶 和 (同学院連続絵本学科学学生)
楊 陽 (中央工芸美術学院美術史学科学学生)
顧 平 (上海音楽学院声楽学科学学生)
加 乃 堤 (同上)
下 萌 (同学院ピアノ学科学学生)
錢 志 (上海戯劇学院演劇学科学学生)
劉 婉 琳 (同上)
王 德 慶 (浙江美術学院工芸美術学科学学生)
何 紅 舟 (同学院油絵学科学学生)
- 団員兼通訳 周 東 亮 (文化部对外文化連絡局アジア処職員)
中国社会科学院日本研究者代表団
団長 盛 楫 勤 (天津社会科学院日本研究所副所長)
副団長 宋 益 民 (中国社会科学院日本研究所政治研究室副主任)
団員 殷 泳 俠 (湖北省社会科学院国民經濟研究所助理研究員)
張 保 通 (陝西省社会科学院助理研究員)
步 平 (黒龍江省社会科学院歴史研究所副所長)

- | | | |
|--------|--|---|
| | 朱金海(上海社会科学院部門經濟研究所助理研究員) | 国進修留学生派遣小組成員) |
| | 蘭明(中国社会科学院外国文学研究所助理研究員) | 同自治区職工教育委員会副主任) |
| | 王泳太(浙江省社会科学院助理研究員) | 劉德尚(內蒙古科技干部局副局長) |
| 秘書長 | 李薇(中国社会科学院外事局並非処副処長) | |
| 11月3日 | 中国統計視察団一行 | 11月18日 高柳由和(国立歴史民俗博物館庶務課庶務係長) |
| | 団長 張塞(国家統計局長) | 田中新次(国立歴史民俗博物館会計課総務係長) |
| | 団員 趙永川(国家統計局干部培訓中心主任) | 中垣三郎(国立歴史民俗博物館資料課図書係長) |
| | 黄德鄰(国家統計局社会統計司長) | 11月20日 高知市展示計画研究委員一行 |
| | 吳輝(国家統計局国際統計和外事司長) | 坂本充男 |
| 11月10日 | 吳新智(中国, 中国科学院古脊椎動物・古人類研究所) | 江口浩 |
| | 尾本恵市(東京大学理学部教授) | 高橋ちさ |
| 11月11日 | 岡村一郎(熊本市立熊本博物館協議会長) | 11月21日 タイ教育家一行 |
| | 吉村一郎(熊本市立熊本博物館協議会副会長) | Ekavidya NATHALANG (Director General, Department of General & Special Education, Ministry of Education) |
| | 永田昭(熊本市立熊本博物館協議会事務長) | Chamnong PRAIYAMKHAE (Supervisory Unit, Office of the National Primary Education Commission, Ministry of Education, Producing Instructional Materials, (Teaching Sc.)), |
| 11月13日 | 田中青樹(名古屋市博物館学芸員) | Swasdi SUWANA-AGSORN (Director, Curriculum Development Centre, Department of Curriculum & Instruction Development, Ministry of Education) |
| 11月15日 | 廣部充美(江戸東京博物館建設準備室博物館建設準備担当主査) | Siri SIRIBUTR (Director, Book Development Centre, Department of Curriculum & Instruction Development, Ministry of Education) |
| | 譚其驥(中国, 復旦大学) | Dhida SARAYA (Professor of History, Chairman, Department of History., Faculty of Arts, Chulalongkorn University) |
| 11月16日 | 中国內蒙古教育視察団一行 | Paitoon PONGSABUTRA (Professor of Geography & Director of Continuing Centre, Department of Geography, Faculty of Arts, Chulalongkorn University) |
| | 団長 許令妊(內蒙古科委主任, 內蒙古草原学会理事長) | Suebsaeng PROMBOON (Professor of History, Department of |
| | 団員 周仿伯(内モン自治区科学技术委員会外事処長, 內蒙古出国進修留学生派遣小組弁公室主任) | |
| | 王国盛(内モン自治区出国進修留学生派遣小組成員, 同自治区財政庁副庁長) | |
| | 田建英(同自治区出 | |

- History, Faculty of Liberal Arts, Thammasat University)
 東南アジア青年招聘計画(シンガポール) 招聘者一行
 トウ・ジュン・ライ(内務省事務官, 緊急計画担当)
 リム・ソク・レン(大蔵省事務官)
 タン・エン・ベン(教育省事務官, 計画・選考担当)
 チョン・レオン・セン(国防省事務官, 人事担当)
 ソー・セック・クワン(シンガポール国立大学日本研究科三年)
- 11月27日 Carlos Sossa URQUIZO(ボリビア, 国立考古学協会長)
- 11月28日 段 文 王(中国、敦煌研究院)
 劉 永 增(中国、敦煌研究院)
 藤枝 晃(京都大学名誉教授)
- 11月29日 永 沢 進(東京都江戸東京博物館建設準備室主査)
- 12月 1日 三重県博物館協会会員
 小田 孝弘(桑名市博物館長)
 嵯峨 井守(楽翁公百年祭記念宝物館代表役員)
 渡辺 修(藤原岳自然科学館, 藤原町長)
 土村 栄一(日本カモシカセンター理事長)
 鈴木 啓道(鈴鹿サーキット万葉の森, 鈴鹿サーキット副支配人)
 岡田 三郎(高宮資料館, 加佐登神社奉賛会長)
 松永 武男(三重県立博物館長)
 望月 光照(高田本山専修寺宝物館, 真宗高田派宗務総長)
 金丸 吉生(石水博物館長)
 小泉 祐次(本居宣長記念館長)
 田畑 美穂(松阪市立歴史民俗資料館長)
 幡掛 正浩(神宮徴古館農業館長)
 林 則行(お伊勢まいり資料館長)
 加納 全昭(金剛証寺宝物館代表役員)
 新原宗太郎(夫婦岩パラダイス水族館長)
 中村 幸昭(鳥羽水族館長)
 石原 義剛(海の博物館常務理事館長)
- 西岡 慶治(鳥羽ぶらじる丸取締役社長)
 御木本美隆(御木本真珠島代表取締役社長)
 窪田 毅(志摩民俗資料館長)
 佐伯 勇(志摩マリンランド理事長)
 谷口 友見(丹敷史料館長)
 長元 博(尾鷲市立中央公民館郷土室, 公民館長)
 森下 憲夫(熊野淡水熱帯魚館, 観光協会長)
 今中 原夫(上野市観光協会長)
 山本 茂貴(芭蕉翁記念館専務理事)
 北田 敬郎(日本サンショウウオセンター長)
 玉置 典治(赤目民俗館長)
 陰里 鉄郎(三重県立美術館長)
 松永 栄夫(海山町郷土資料館長)
 梅田 守(大宮町郷土資料館長)
 今中 原夫(伊賀文化産業協会専務理事)
 樋口 雄一(紀伊長島町立郷土資料館長)
 中村 重二(伊勢市立郷土資料館長)
 伊勢谷正憲(南勢町民俗資料館長)
- 12月 2日 中国科学院国際交流担当者代表团一行
 団長 蘇 世 生(中国科学院副秘書長)
 副団長 藤 庭 康(同院新疆分院副院長兼外事処長)
 団員 梁 乃 藹(同院広州分院外事処副処長)
 孫 還 堅(同院蘭州分院弁公室主任)
 張 国 利(同院国際学術交流服務中心科長)
 蔡 沙 影(同院武漢分院外事処科長)
 張 小 安(同院西安分院外事秘書, 主任科員)
 于 小 薇(同院国際合作局幹部)
- 12月 3日 Paloma CORDERO de LA MADRID(メキシコ合衆国, 大統領夫人)
- 12月 4日 米国ワシントン地域教育関係者一行
 Persephone L. BROWN (Tea-

- cher, Garfield Elementary School)
 Walter HENRY (Principal, Burville Elementary School)
 Michelle L. BERMAN (Teacher, Bradley Hills Elementary School)
 Vera M. CHISM (Teacher, Woodacres Elementary School)
 William J. CLARK (Director, Department of Academic Skills, Montgomery County Public Schools)
 Cheryl A. WHEATON (Resource Teacher, Thomas W. Pyle Intermediate School)
 Raymond WILKINS (Chairman, Fine & Performing Arts, South Lake Highschool)
 Elizabeth S. CANADA (Teacher, Spring Hill Elementary School)
 Susan DeCORPO (Principal, Key Intermediate School)
 Jay P. NESS (Assistant Principal, Yorktown High School)
- 12月5日 中国青年代表团一行
 団長 李 剛 (全国青年聯合会常務委員, 副秘書長)
 副団長兼秘書長 金 東 (同委員, 寧省青聯副主席)
 副秘書長 羅 世 鵬 (全国学生聯合会国際部長)
 鄭 玉 芳 (同会国際部幹部)
 団員 姜 大 明 (同会弁公室責任者)
 黄 鷹 (同会副秘書長)
 張 勤 (全学聯副主席, 清華大学核エネルギー研究所博士研究生)
 李 琦 穎 (全学聯副主席, 西南政法学院学生)
 張 洪 生 (同副主席, 東北師範大学政治系学生)
 付 明 蘭 (同副主席, 暨南大学医学院医療系学生)
 单 汝 波 (同副主席, 科技大学精密機械系学生)
 譚 楓 (全青聯副主席, 中国医科大学公共衛生専攻学生)
 郭 躍 (湖北省学聯主席, 武漢大学哲学系学生)
 朱 光 磊 (南開大学研究生会主席, 同大哲学系修士研究生)
 賈 長 存 (中国人民大学研究生会主席, 同大法律系修士研究生)
 王 浦 劬 (北京大学研究生会副主席, 同大政治系博士研究生)
 董 亮 (上海市学聯研究生会副主席, 上海交通大学管理学院研究生)
 郭 志 斌 (華中師範大学研究生会主席, 同大教育科学研究所修士研究生)
 于 其 多 (上海師範大学研究生会主席, 同大学生)
 鄭 強 (對外經濟貿易大学日本語専攻研究生)
 花 沢 飛 (雲南省学聯秘書長)
 楊 波 (山西省学聯秘書長)
 熊 仁 民 (江蘇省学聯秘書長)
 沈 慶 城 (福建省永定県青年職員)
 張 佩 君 (中典民族歌舞団声楽俳優)
- 12月13日 長谷川正明 (新潟県立自然科学館長)
 富永 利昭 (新潟県立自然科学館主任展示専門員)
- 12月22日 Martin REYES VAYSSADE (メキシコ合衆国, 文部省文化次官)
- 12月27日 ソ連科学アカデミー極東科学センター一行
 アンドレイ・イヴァーノヴィチ・クルシャーフ (同センター副総裁, ソ連科学アカデミー準会員)
 グラジーミル・アナトーリエヴィチ・フェドセーエフ (同センター海洋経済研究所長)
 ニコライ・ガヴリローヴィチ・ネハエンコ (同センター学術総局次長)
 ヴィクトル・ヴァシリエヴィチ・サヴァレイ (同センター海洋経済研究所上級研究員)

11巻1号

石毛 直道：東アジアの魚醤——魚の発酵製品の研究 (1)——	1
伊藤 幹治：東北農村におけるキリスト教の受容	43
杉田 繁治：コンピュータ民族学序説	57
栗本 英世：雨と紛争 ——ナイル系パリ社会における首長殺しの事例研究——	103
八杉 佳穂：マヤ文字の分析 I ——ナランホ——	163
杉本 尚次：ヨーロッパの野外博物館——その民族学的・地理学的研究——	263
Kenneth Ruddle, Deng Hanzeng, Liang Guozhao: Energy Exchanges and the Energy Efficiency of Household Ponds in the Dike-Pond System of the Zhujiang Delta, China	323

11巻2号

崎山 理：オーストロネシア語族とバプア諸語の言語接触 ——とくに語順変化について——	355
関本 照夫：ジャワ神秘主義の民族誌	383
煎本 孝：ラダック王国史の人類学的考察——歴史・生態学的視点——	403
栗田 靖之：ブータン・ヒマラヤの生業形態の多様性	457
渡辺 仁：狩猟採集民集落平面形の体系的分類——社会生態学的・進化的研究——	489
君島 久子：中国文献にみる龍舟競渡——方志資料を中心として——	543

11巻3号

石毛 直道：東アジア・東南アジアのナレズシ——魚の発酵製品の研究 (2)——	603
浅川 滋男：住空間の民族誌——中国江南の伝統的住居をめぐって——	669
古林 清一：近代エジプトにおけるスーフィー教団について	781

11巻4号

長野 泰彦：ネワール語の能格現象	811
西 義郎：現代チベット語方言の分類	837
周 達生：中国の高床式住居 ——その分布・儀礼に関する研究ノート——	901
Joseph M. Luyten: XVI and XVII Century Relationships among Portuguese and Dutch and their Reflexions in Japan	979
Kenneth Ruddle: The Supply of Marine Fish Species for Fermentation in Southeast Asia	997

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において相当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスミ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthro-
pology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The Uni-
versity of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 11卷4号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

竹 村 卓 二

〔編集委員〕

君 島 久 子

ケネス・ラドル

崎 山 理

須 藤 健 一

田 邊 繁 治

垂 水 稔

中 山 和 芳

長 野 泰 彦

福 井 勝 義

宮 本 勝 勝

八 杉 佳 穂

和 田 正 平

昭和62年3月31日発行非売品

国立民族学博物館研究報告 11卷4号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.11 no.4
1986

NAGANO, Yasuhiko

NISHI, Yoshio

ZHOU, Dasheng

LUYTEN, Joseph M.

RUDDLE, Kenneth

Ergativity of the Newar Language

A Classification of Tibetan Dialects

On Stilt Houses in China

**XVI and XVII Century Relationships among
Portuguese and Dutch and their Reflexions in
Japan**

**The Supply of Marine Fish Species for Fer-
mentation in Southeast Asia**



**National Museum
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X